

NO BOOK, NO LIFE!!

静岡県立浜松湖北高等学校図書館通信
R5.8 VOL5

♪真夏のピークは去った。それでもいまだに街は落ち着かないような気がしている。最後の花火が終わったら 僕らはわかるかな？ 同じ空を見上げているよ♪
そんな歌詞を口ずさみたくなるような、夏の終わりを感ずる図書館から図書館だよりVOL.5号をお届けします。
密な青春が少しづつ戻ってきて、皆さんそれぞれが熱い夏を謳歌したのではないのでしょうか。二学期は学校生活の中で大きな実りを得られる大切な場面がたくさんあります。
暑さと熱さのクールダウン、夏の疲れを癒して前向きに挑み励むためのソフトチェンジに図書館での読書をお勧めします！
(作詞：志村正彦 『若者のすべて』 2007年 高校音楽の教科書「MOUSA 1」教育芸術者刊に、時代を彩る歌唱教材・2000年代を代表する曲として本楽曲が掲載される。)

第2回図書館イベント報告

第2回図書館イベントは、静岡県4位の素晴らしい成績を成し遂げた男子バドミントン部有志の皆さんによる、紙芝居です。テンポの良いチームプレイで、奥深い作品を印象深く清々しく表現してくれました。



『ぼくを探しに』 シエル・シルヴァンスタイン著



「何かが足りない それでぼくは楽しくない 足りないかばらを探しに行く」主人公はころがりながら歌いながら、足りないかばらを探します。不完全な自分を完成させるために旅に出て彷徨って戸惑って、初めて気づく足りない自分らしさの本質と気楽さ。読み継がれ、ベストセラーとなっているわけが、きっと皆さんにも伝わります。

テンポよく、自分も転がっているかのように読んでくださり、物語に引き込まれました。紙芝居がずっと続く、シャトルラリーのように心地よく感じ、より一層感動できました。「欠片がなくても自分らしく！」そう思えるようなすっきりしたひと時でした。
図書委員 13HR 叶野葵



日本人は読書が大好き!? NHK大河ドラマ超先読み



インド、イスラエルに次いで、読書量の世界第3位の日本。300年以上にわたって読書文化を育んできました。源六時代(1688-1704)には、年間最大1万冊の本を生産する出版制度を確立しました。現在、日本は毎年4万冊の本を出版しています。江戸時代、出版文化に大いに貢献した蔦屋重三郎氏の生涯が、再来年のNHK大河ドラマで描かれることになりました。主演は俳優の横浜流星さんです。ぜひ蔦屋重三郎を先読みして日本の読書文化を理解する機会にしてみてください。



『稀代の本屋 蔦屋重三郎』 増田晶文著

山東京伝や恋川春町らで世を沸かせ、歌麿を磨きあげ写楽を産み落とした江戸随一の出版者・蔦屋重三郎。出版者であり編集者であり流通業者であると同時に、流行を仕掛け情報を発信する辣腕メディアプロデューサーでもある。そして何より、新しい才能を見出し育てあげて世に出し、江戸の日本の文化を変えた巨大な創造者でもあった。時に為政者の弾圧にあいつつ「世をひっくり返す」作品を問いつづけた稀代の男の波乱の生涯の物語。

中村佑介特集



いつの時代にも思わず手に取りたくなる本、ずっと手元に持っていたい本があります。そんな魅力的な本をつくり出す、本のデザインの担い手である中村佑介氏の手掛けた作品を読んでみませんか？

1978年兵庫県生まれ 大阪芸術大学デザイン学科卒業
『謎解きはディナーのあとで』東川篤哉著(小学館) 『夜は短し歩けよ乙女』森見登美彦著(角川文庫)
教科書『高校生の音楽(教育芸術社)』など数多くの書籍カバー・挿画を手がける。アニメーションのキャラクターデザイン(TVアニメ/四畳半神話大系 劇場アニメ/夜は短し歩けよ乙女)
ロックバンド ASIAN KUNG-FU GENERATION のCDジャケットデザイン作成
ラジオ番組・テレビ出演、エッセイ執筆など、その表現活動は多岐にわたります。



国立署の新米刑事、宝生麗子は世界的に有名な『宝生グループ』のお嬢様。『風祭モーターズ』の御曹司である風祭警部の下で、数々の事件に奮闘中。難解な事件にぶちあたると、その一部始終を相談する相手は「執事兼運転手」の影山。「お嬢様の目は節穴でございますか？」暴言すれすれの毒舌で麗子の推理力のなさを指摘しつつも、影山は鮮やかに謎を解き明かしていく。



父を殺されたばかりの可愛い女子高生・星泉は、組員4人のおんぼろやくざ・目高組の組長を襲名する破目になった。襲名早々、組事務所には機関銃が撃ちこまれ、早くも波乱万丈の幕開けとなった。組を支える任侠道一筋の佐久間、泉に憧れる同級生三人組、ハンサムな中年刑事、抗争を繰り返す二大組織暴力団らが入り乱れ、事態は奇想天外な方向へ。

『謎解きはディナーのあとで』東川篤哉著 小学館 『セーラー服と機関銃』赤川次郎著 KADOKAWA



「黒髪の乙女」にひそかに想いを寄せる「先輩」は、夜の先斗町に、下鴨神社の古本市に、大学の学園祭に、彼女の姿を追い求めた。けれど先輩の想いに気づかない彼女は、頻発する「偶然の出会い」にも「奇遇ですねえ!」と言うばかり。山本周五郎賞を受賞し、本屋大賞2位にも選ばれた、キュートでポップな恋愛ファンタジーの傑作。



琵琶湖畔を舞台とする高校3年生5人のバンドを巡る熱く切ないひと夏の物語。舞台は2001年ごろの琵琶湖を望む滋賀県長浜市。京都に近いが北陸にも近いという微妙な田舎町。地方の名門高校生を取り巻く旧態依然とした教師たちへのアンチテーゼを織り込みながら、大人となった彼らのそれぞれの人生も描く。

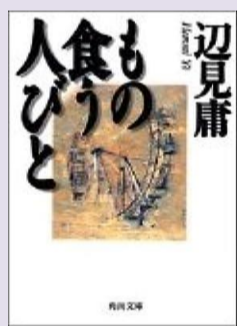
『夜は短し歩けよ乙女』森見登美彦著(角川文庫) 『青春ぱんだバンド』滝上耕著 小学館

先生のお薦め本紹介

お薦め本コーナーから、「読書の巨人」と呼ぶのにふさわしいおふたりの先生のお薦め本を紹介します。

鈴木厚也先生

『もの食う人びと』 辺見庸著
旅先での楽しみの一つは、その土地ならではの食べ物を味わうことです。インデカ米、ピタ、サンミゲル、ソムナム、フォー、ザウアークラウト、ケバブ、ホグラッチ、ザッハトルテ……。現地の人たちが通う飲食店に入り共に食べ、現地の通貨で支払う。これだけでも世界を感じます。(ここ浜松にも各国の食文化を体験できるレストランが増えましたね。)「食う」ことは欠くことのできない人間生活の中心です。その「食」の背景にあるものを、この本をきっかけにして想像してみましよう。



山口安司先生

『第三次世界大戦はもう始まっている』 エマニュエル・トッド著
国境の修正という「ローカルな問題」が、米国はウクライナを「武装化」し「NATOの事実上の加盟国」としていた。この米国の政策によって、ウクライナ問題は「グローバル化=世界戦争化」した。いま人々は「世界は第三次世界大戦に向かっている」と話しているが、むしろ「すでに第三次世界大戦は始まった」。この一冊から少しでも世界に関心を向けてみてほしいと思う。



1学期の各学年多読学級

1学年	・16HR 128冊	・18HR 113冊
2学年	・26HR 76冊	・22HR 47冊
3学年	・32HR 13冊	・37HR 12冊

放課後の図書館利用について

- ・図書館貸出利用は16:45までです。
- ・学習利用は17:30までです。
- ・退館時は、椅子や消しゴムごみを片付けてください。
- ・閉館当番は、消灯をお願いします。
- ・閉館当番は、施錠を職員室にいる先生にお願いして下さい。
- ・私語や携帯電話の使用は厳禁です。
- ・部活、委員会、職員会議がある場合は閉館となります。